

「修学旅行の事前事後学習への2つの試み」

大阪教育大学附属高等学校平野校舎 久下 哲也

1. 提案理由

今日、高校生にとって「デジタル」はきわめて身近になった。パソコン、デジタルカメラ、携帯電話、スマートフォンを個人で所有し、また学校でも中学の技術家庭、高校の情報科でワープロ、表計算、メール、インターネット、プレゼンテーションソフトの使い方もひと通り学んでいる。ビデオ撮影や編集をさせている学校も増えている。

しかし、技術の進歩と普及は、必ずしも質の向上を約束しない。他の技術と同じように、「デジタル」にも功罪の両面がある。本稿では、修学旅行の事前事後学習という機会を使って、「デジタル」の使い方を見直し、「アナログ的」な方法を組み合わせた試みについて簡単に報告したい。

2. 本校の修学旅行と「総合的な学習の時間」について

私の現任校である大阪教育大学附属高等学校平野校舎は学年3クラスの小規模校で、修学旅行は2年生の7月上旬に実施している。私が修学旅行を主担した38期生（平成22年度）の行き先は、沖縄方面であった。

また本校では、2学年のカリキュラムに「総合的な学習の時間」が1時間あり、上半期は修学旅行の事前事後学習に充てている。また、この時間は全クラス一斉に木曜の5時限目が当てられており、6時間目のLHRと組み合わせて2時間連続にすることができ、放課後も加えて柔軟に計画することができ、有難かった。

3. 実践内容

(1) 「班別タクシー自主研修」について

4泊5日の行程の中で、事前事後も含めて、生徒に自主的に学ばせることにあてたのは、最終日の「班別タクシー自主研修」である。2年生114人を8人～10人の13班（男女混成・クラス自由）に分ける。移動はジャンボタクシー。朝9時にホテル（恩納村）を出発し、15時半に那覇空港に集合する。約6時間半の自主研修である。

また、行き先の選定にあたっては、

- ①最低限、「歴史」と「文化」をテーマとする場所を1カ所ずつ入れる
- ②この2つについては事前レポートと事後報告を行うことを伝え、その上で計画を立てさせた。実際の行き先は以下ようになった。

1	恩納ガラス工房、首里城公園、国際通り
2	首里城、ひめゆりの塔、那覇市役所、国際通り
3	喜屋武岬、琉球ガラス村、ひめゆりの塔、国際通り
4	道の駅嘉手納、アメリカンビレッジ、おもろまち、斎場御嶽
5	中村家住宅、首里城、国際通り
6	普天間基地、福州園、旧海軍司令部壕
7	首里城、石畳道付近、識名園、那覇市役所、国際通り
8	旧海軍司令部壕、国際通り、パイナップルハウス
9	ビオスの丘、サンセットビーチ、首里城、国際通り
10	首里城、パイナップルハウス、琉球ガラス村、国際通り
11	サンセットビーチ、ひめゆりの塔、沖縄伝統工芸琉球、国際通り
12	首里城、おきなわワールド、国際通り
13	首里城公園、旧海軍司令部壕、国際通り

(2) 事前調査・事後報告の日程

- | | | |
|------------|-----------------------|----------------------------------------|
| 4 / 15 (木) | タクシー班編成 | |
| 5 / 13 (木) | 5限～ 説明&研修先選び・事前調査① | } コンピュータ室
} 図書室
} 合同教室
} HR教室 |
| 21 (金) | 中間考査終了後～4限まで 事前調査② | |
| 6 / 3 (木) | 5限 事前調査③ 研修先の決定〆切 | |
| 17 (木) | 5限 事前調査④ レポート提出〆切 | |
| 24 (木) | 6限 レポート配布と評価会 | |
| 7 / 3 (土) | 評価結果発表と事後報告についての詳しい説明 | |
| 7 / 6 (火) | ～10 (土) 修学旅行 | |
| 9 / 9 (木) | 事後報告発表会と品評会 | |

研修先選びと事前調査は並行して作業が行われる。このためにできるだけのスペースを開放しているが、その中で特に説明が必要なのはコンピュータ室の利用であろう。

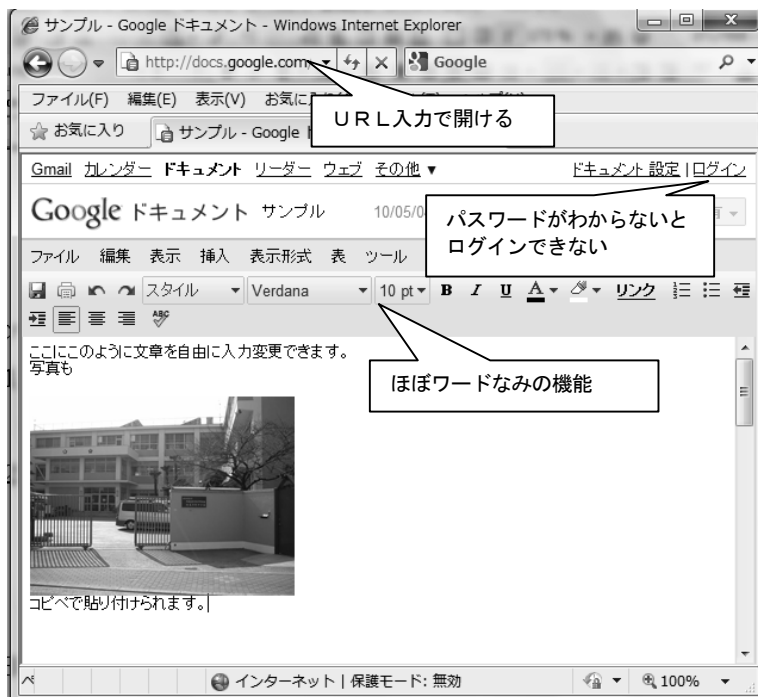
(3) **試み① ネットスペース (Google ドキュメント) の利用**

インターネットを利用した調査とまとめをさせるにあたり、今回はじめて Google ドキュメントを使った。Google ドキュメントは Google が無償で提供するサービスで、ネット上にスペースが与えられ、そこで Microsoft Office に類したソフトを稼動し、データを保存・共有できるものである。図書などで調べたこともここに入力させた。

1. 専用アカウントを作成して (fukou3800@gmail.com) のネットスペースに、各班に2つずつのドキュメントを与える。
2. アクセス先のURLを教えてアクセスさせる (最初はフロッピーに pdf で入れて

班長に渡してPC教室で)。自宅作業希望者はメールアドレスを申告すればそこへURLを送ることもできる。

3. PC教室で1班に複数のPCを割り当てればメンバーが並行で作業できる上に、複数で同時にアクセスしてもエラーにならないので共同作業もできる。
4. 写真を入れることも文字数を数えることも可能。
5. データの紛失や、学校PCへのウィルス持込問題は起こらず、学校のPC教室が使えなくても作業ができ、データはいつでも管理者(教員)が閲覧できる。
6. 管理者によってファイルの改変の可否、公開の可否を個別・一斉に変更できる。
7. Word形式でのダウンロードも簡単なので、その後の編集・印刷も比較的容易。



これにより、事前報告レポートは「1カ所につき文字数1200字以内。図や写真は1枚まで」と条件を統一できた。なお、図書・インターネットなどから引用する場合はかならず典拠を明示するように指示した。

(4) 事前調査から事後報告へ。

各班のレポートをまとめて印刷し、全員に配布して、自班以外のレポートから優れているものを歴史編・文化編それぞれ一つずつ選ばせた。

その結果発表を行った7/3(旅行3日前)には、事後報告についての説明を行った。

1. 事前レポートした2つのうち1つを選んで、現地で学んだことを発表。
2. 制限時間は5分。

3. 次のような観点に重点を置いて発表する。
 - a. 現地で知った、どの班の事前調査にもなかった事実
 - b. 現地の実際と事前調査が合っていなかった事例
 - c. 現地で自分たちが直に感じた感覚や感想
4. 学校側から提供する機材は次の3種類のみ。
 - ・OHC（オーバーヘッドカメラ）
 - ・CDMDラジカセ
 - ・ワイヤレスマイク2本
5. OHCの映像を映写し、ラジカセの音は合同教室に流す。あくまでも提示はOHCとラジカセとマイクを通じて行い、よって、大きな模造紙などに書くとか、PCを直接利用する(PowerPoint など)は、今回禁止とする。写真も、携帯やデジカメなど自分たちで撮影したものに限る。

この「3」にも、一つのねらいがある。事前調査のために調べたことは事後報告に入れてもポイントにならない。これは、「調べる」こと、特にネットで調べることに慣れている生徒に対して、現地で情報を集めたり、肌で感じたりすることを大切にさせたかったからである（このため、事後報告の内容は直前まで「秘密」にしていた）。

(5) **試み② パソコン禁止のプレゼンテーション**

PowerPoint が普及して、さまざまな場面で広く使われている。確かに便利だし、演出や効果を使って簡単に見栄えのよい報告を作成することができる。デジタルの効用と言えるだろう。

しかし、そのためにはさまざまな弊害もある。①最終的にソフトで完成させる一人の負担だけが大きいこと、②データのデジタル化が必須であるため手軽さに欠けること、③準備するためにPCが必須であること、などである。

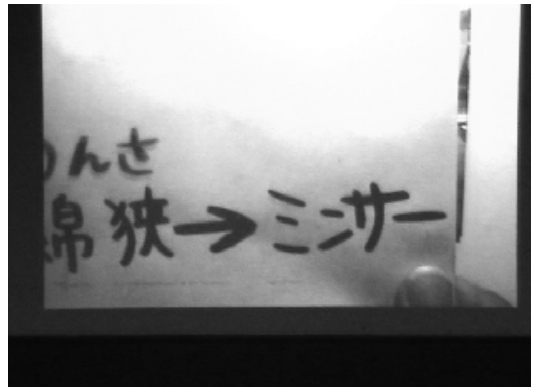
特に③については、生徒がPCを持っていてもPowerPoint は入っていないことが多いため学校の機械を利用することとなり、生徒が直前になって遅くまで学校に残ったり、機械の故障や不足、生徒持ち込みメモリからのウィルス感染など、これまでもトラブルが絶えなかった点であった。

そこで、「発表」の原点に帰り、パソコンを使わずに発表させることを試みた。

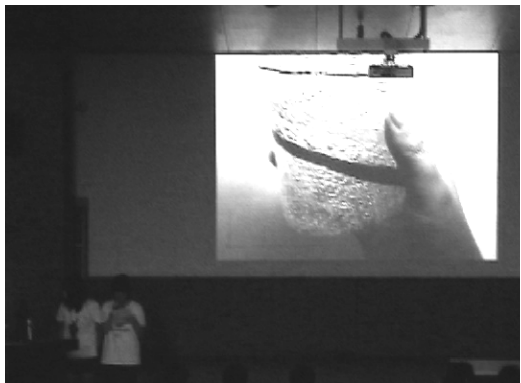
その結果、生徒は各班それぞれに色々な工夫をして発表していた。当日の写真を使っていくつか例示してみよう。



みんな織りを報告した班。撮影した写真をバックに「ちゅらさん」を模したミニドラマを演じた。



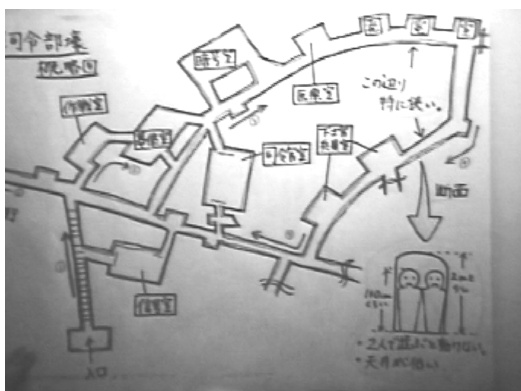
同じ班。説明のテロップも手書きで、OHCを使って映しだす。



琉球ガラス体験をした班。実物＝自分たちが作った作品をそのまま提示できるのも魅力。



同じ班。自分たちで撮った写真を何枚も重ねてリズムカルに演出している。



海軍司令部壕を見学した班。手書きの図面もスクリーン不要で使える。右下の断面図が良い味。



説明、OHCでの提示、BGM音楽など、係分担を決めて発表にあたる。



携帯やデジカメで写真を撮り、プリントせずそのまま見せていた班もあった。リアルで面白い。



写真の一部を直接ペン先で指さして、「この道のところが…」と説明できて便利。



自らヴァイオリンを生演奏してBGMにする班。アナログならではのパフォーマンス。



一人が会場を回って、自分たちが作った琉球ガラスのペンダントをさわらせて回る班もあった。

なお、報告も評価させている。採点は合計10点満点。内容点5点、技術点5点。内容点は「現地へ行ったからこそ」に、技術点は「アイディア」「チームワーク」に重点を置いて採点するように、また簡単でいいので理由（コメント）も書くように指示した。

4. おわりに

発表終了後に、学年通信の場を借りて、今回の総合学習について生徒に以下のように説明した。いさかか面映いが、これを引用してまとめとしたい。

今回の事後学習には、大きく2つのねらいがありました。

一つは、パソコンに頼らない発表に改めて取り組むことで、発表の形式や内容そのものをもっと追求してもらいたいと思ったことです。

大人の世界でも、いつのまにかパワーポイントを使ってパソコンで説明するのが当たり前になっています。パソコンを使えば、中身が良かろうと悪かろうと、派手な音や動きで見栄えの良いものが作れます。また、ネットから手軽に持ってきた資料を安易に使うことに慣れてしまって、自分で考えたり、現地で情報を集めたりという、大切な基礎が軽視されがちです。

マイクとOHCとラジカセは、大人数に説明するから必要な道具であって、相手が2、3人ならば必要ないものです。今回、生徒諸君が試みた発表は、いわばギリギリ最低限の機材でどうやって人の注意を引き、相手に情報を伝達するかという工夫と努力だったのです。

パソコン、ネット、携帯、などなど。私たちの生活はデジタルで包囲されています。これらは、例えば電気が切れたら、使えなくなってしまうものです。そうでなくても、ちょっとしたトラブルで動かなくなります。

デジタルに頼らない情報社会の生き方を、これを機に考えてほしいと思います。

もう一つは、あくまで現地での学習にこだわってほしいと思ったことです。それは、ちょっとおおげさに言うと、自分の五感で世界をとらえ、自分の頭で考えるということです。

現代はまさに情報社会で、ネット・ガイドブックなどさまざまな方法で、居ながらにして世界中の情報を得ることができます。ネットで調べるといっても、少し前までは、それなりに技術とノーハウと基礎知識が必要でしたが、最近はウィキペディアやブログ、ツイッターなどの「集合知」の蓄積により、誰でも膨大な情報を得ることができるようになりました。

それは便利な反面、いわゆる「バーチャル」に安住してしまう、さらには現場での「生々しい」情報を軽視する価値観につながっていているように思います（またもちろん、誤った情報も流れています。ウィキペディアにすら時々間違いを見つけることがありますよ）。

考えてみれば当たり前なのですが、ネットでも書籍でも、そこにある情報は、誰かがチョイスしたものなのです。すべての事象を網羅して残すことなど、人間にはできません。それを書いた人は、それが大切だと思ったのです。

では、あなたはどうですか？

事前に調べることはもちろん大切です。しかし、現代では調べることはさほど難しくありません。それよりも、調べたことを現地で確かめること、調べられなかったことを現地で数多く見つけることの方が、ずっと大事ではないでしょうか。

なお、今回私が「OHC使用の発表」を思いついたのは、NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会でも活発であった「研究発表部門」の記憶が少なからぬ影響を与えている。もっとも当時はOHCではなくOHP（オーバーヘッドプロジェクター）であったが、あの鮮やかな動きとチームワークは忘れ難い感動であった。

あのスキルが現代こそ必要ではないかと思うのだが、老人の懐古趣味だろうか？

(大阪府高等学校視聴覚教育研究会幹事)